

## 第三十二回企業活性化研究分科会・議事録

<第三十二回 2010年7月24日(土) 時間:13:00~15:30 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:井端、魚谷、大野、木村、齋藤、菅原、杉本、高市、長井、星野、松本、宮川、山本、横山、依田、渡邊

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ①:『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』についての議論および総括

4. 発表内容

テーマ②:『粉飾企業の分析』

- ・報告者:大野喜一
- ・配布資料:10枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、フタバ産業株式会社(以下、同社という。)の粉飾について分析したものである。同社は、平成16年3月期から平成21年3月期までに不適切な会計処理が行われていたことを公表した。その特徴は、訂正報告書をみると数次にわたる財務数値の訂正がなされていることである。訂正報告書の内容は、減価償却による粉飾など固定資産に関する不適切処理が挙げられる。この点を踏まえ、分析により粉飾を発見することができるか否かについて検討している。

本分析では、フリーキャッシュフロー(=営業CF+投資CF+配当支出)を用いた分析手法から不適切な財務数値を求めている。その手法によれば、営業キャッシュフローの利益要素は水増しされていたとしても運転資本要素においてその分だけマイナスとなる。両者を合算した結果、粉飾が中和されることとなり、数値の疑念が生じ、粉飾の発見のツールとして利用できるとされている。分析の結果、同社の平成16年3月期から平成21年3月期の五年間の累計額として、1,034億円のマイナスとなり、ここから不適切な会計処理を推察する可能性を示唆している。

数次にわたる訂正を行った今回のようなケースの分析は、本分科会においては新しいものである。また、複数公表された財務数値をどのように扱うかについても含め、その分析方法の確認と分析データの統合の確認を行い、再度報告することとなった。

(文責:齋藤幸雄)